

学校評価アンケート結果報告

令和4年1月
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けております。さらなる教育の環境整備と質的向上、教育成果の向上のために様々な取り組みを重ねて参りました。その成果を確認するとともに、さらなる改善に向けた課題形成を図る機会として本年度も学校評価アンケートを実施いたしました。集計結果に分析を加えて、学校改革・教育改善の進捗をお伝えすべく本書面に報告をまとめましたのでご高覧のうえ、ご意見等を頂戴できれば幸甚です。

学校長 岩本信久

凡例と集計方法について

凡例: ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。グラフ中の数値は小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。今後も情報発信の充実を図り、教育意図の説明をはっきり行うことで、皆様からご明確なご判断を仰げるように努めて参ります。

「入学させて良かった」は9割超を維持

Q1 お子様を大阪高校へ入学させてよかった(知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい)と思われますか。



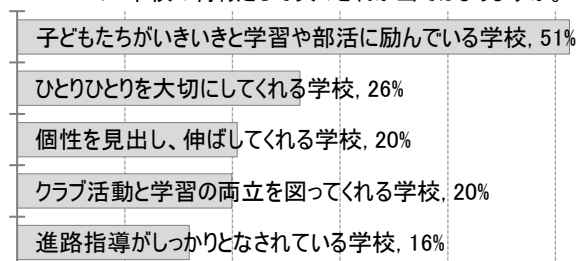
毎年お尋ねしている「大阪高校に入学させて良かったか」という質問では、肯定的な回答が占める割合が9割以上で推移しています。「どちらかと言えば」という但し書き付きのものがまだ多く、次回以降はより多くの保護者の皆様に迷いなく「そう思う」を選んでもらえるよう、学校を挙げて教育活動の更なる改善を図ってまいります。

データを解析してみると、総合的な満足度を左右する主要因は、これまでと同様に「保護者の要望への誠実な対応」「学力向上(学習指導)」「進路希望の発見と実現(進路指導)」でした。子どもに獲得させたい資質を尋ねた質問(詳細は後掲)では、「将来を切り開いていく力」が選択率のトップですが、その原資は確かな学力にあります。新課程への移行で学力の定義にも変化が生じますが、基礎力(言語、数量、情報の各スキル)、思考力(問題発見・解決力やメタ認知・適応的学習力など)、実践力(社会参画力、持続可能な社会への責任など)をバランスよく、且つ高い

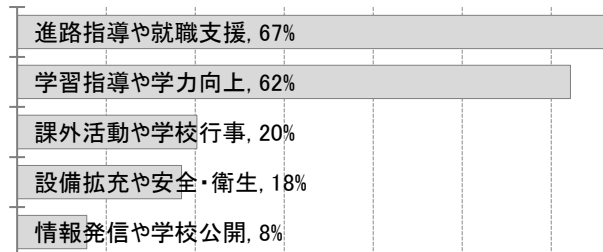
次元で生徒に獲得させることで、これまで以上に「入学させて良かった学校」にしていきます。生徒に回答を求めた同様のアンケートでも、「授業を通した学力向上感」が大高での生活への満足度を大きく左右していることが分かっています。教職員もまた最優先して充実を図るべきことの筆頭に「学習指導や学力向上」を挙げています。このように三者の思いが合致している中で教育リソースの最適配分を図り、学校に向けられた期待に応えていきたいと思ひます。併せて、指導への思いと工夫、生徒の成長と活躍の様子などの発信にも一層の力を入れていく所存です。

学校のイメージと改善課題

Q2 本校の特徴として次のどれが当てはまりますか。



Q3 学校にさらなる充実を求めたいものは何ですか。

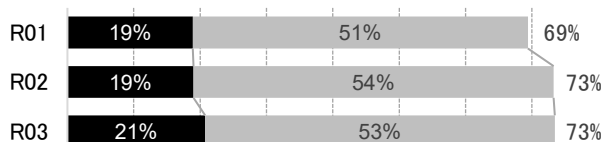


本校の特徴として、最も多くの保護者が挙げたのは「子どもたちがいきいきと学習や部活に励んでいる学校」でした。さらなる充実が求められている教育活動(学習指導と進路指導など)の改善への取り組みも、こうしたイメージや期待に違ふことのないよう、しっかりと方向を見据えて進めていきます。

学習指導と進路指導のさらなる充実

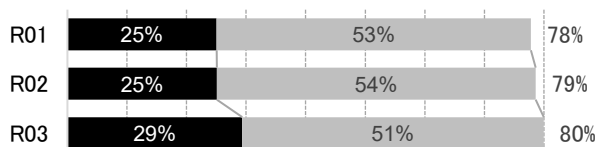
「学習指導や学力向上」「進路指導や就職支援」でのさらなる充実を求める多くの声に応えるべく様々な改善策を講じています。一定の成果を得た手応えはあるものの、教職員も「道半ば」との認識です。

Q4 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われますか。



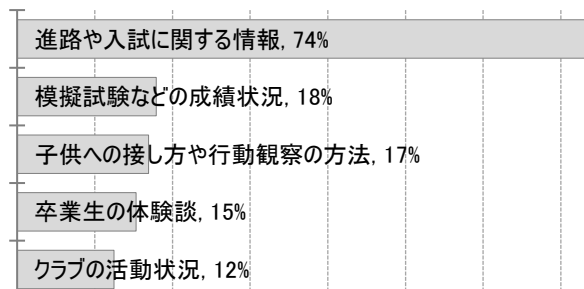
学習指導への評価は肯定的な回答が 73%でした。昨年度からの積み上げはほとんどなく、「どちらかと言えば」の但し書き付きが多くを占めています。教職員の多くも「日々の教育活動で最も大切にしていること」に「教科学習指導のスキルアップ」を掲げており、今後ますます高まる「確かな学力」の実現への期待に、学校を挙げて応えていきたいと思っています。なお、生徒による授業評価アンケートでは、「授業を受けて学力の向上や自分の進歩を実感できる」との回答が着実に増えてきていますので、授業改善への取り組みは一定の成果を得ているかと思われます。学力の伸長や生徒の成長の様子を、保護者の皆様にしっかりお伝えできるよう、努力する所存です。

Q5 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思われますか。



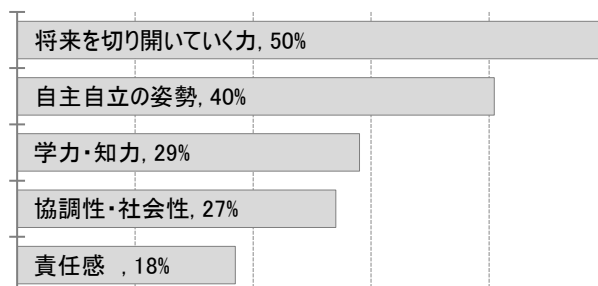
進路指導への評価は、昨年をわずかながら上回り、肯定的な回答が占める割合も 8 割に達しましたが、3 年保護者の肯定率 84%（直近 3 ヶ年平均）に対して 2 年生は 72%に止まります。今後の課題の一つは 2 年生に対する指導の方針と成果を明確に伝えることにありそうです。学校では 3 年間を見通した計画的な進路指導に取り組んでいますが、指導の成果と展望をご家庭と逐次共有するの必要を感じています。今後は、教科学習、進路、探究の各活動を一体で進めている指導の様子を、適切な広報を通じてご家庭からも「見える」ものにしていきたいと考えています。

Q6 保護者会などで取り上げてほしいことは？



「保護者会やクラス懇談会で取り上げてほしいこと、充実を望むことはどれですか」という質問には、これまで同様、「進路や入試に関する情報」の選択が圧倒的に多く見られ、進路を取り巻く状況と実際の指導の様子に強い関心が向けられています。コースや学年によっても回答分布に違いがありますので、それぞれのニーズへの対応も進めて参ります。

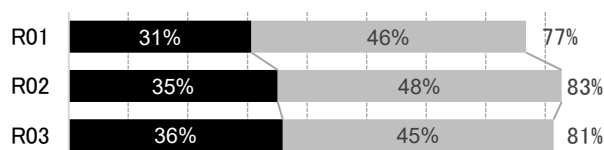
Q7 子どもに獲得させたい資質はどれですか。



子どもに獲得させたい資質に挙げた項目もこれまでと変わりありません。上位 2 つは選択率も昨年と同じです。今後の学校経営ではこれら着実な育成を目指して教育リソースの最適配分を図りますが、社会の変化がかつてない速さと大きさで進んでいる今、「将来を切り開いていく力」の構成要素の入れ替わりを鋭敏に捉える必要があると考えております。また、学年が上がると「協調性・社会性」の選択率が高まる傾向も見られます。基礎力や思考力といった個人の内部で発揮される力をしっかりと養う一方で、段階を踏みつつ、社会参画力やより高度な人間関係形成力といった他者との関わりの中で発揮され、鍛える機会を得る能力・資質（いずれも「21 世紀型能力」では「実践力」を構成する要素です）を育む機会の充実を図って参ります。また、今期から回答選択肢に「情報活用力とモラル」という項目を加えました。選択率は 7%とさほど大きなものではありませんでしたが、生徒が暮らしの大きな部分を占める空間での立ち振る舞いについても深く学ばせ、確かな活用力・判断力を身につけていきたいと思っています。

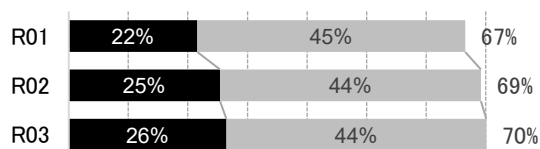
目標をもってひたむきに頑張る姿

Q8 保護者の目から見てお子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていると思いますか。



「お子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていますか」という問いへの肯定的な回答は昨年の83%を2ポイント下回りましたが、但し書きなしの「そう思う」はわずかに増えています。別の質問で尋ねた「頑張る対象」では、学校行事を挙げる割合が増えましたが、ここで教科学習、進路実現、クラブ活動を選んだ保護者は、Q8でも肯定的な答えを選ぶ傾向が見て取れました。我が子に頑張ってもらいたいと願うことはこの辺りにありそうです。生徒が一人ひとり力を出し切れる場をこれまで以上に整えて、その努力を後押ししていきたいと思います。

Q9 お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか。



一方、学習面に絞ってお尋ねした「お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか」という質問でも肯定的な回答が占める割合が増えていますが、ようやく7割に達したところです。日々の授業の充実を図るとともに、生徒一人一人が「学ぶことへの自分の理由」を見つけられるよう、「学習・探究・進路の各指導の一体化」を今後も着実に推進していきます。

安全確保と規律ある生活の実現

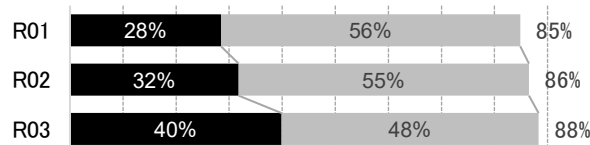


「生徒の安全に対する学校の取り組み」と「高校生にふさわしい規律ある生活」には、引き続き高い評価を頂戴していますが、選択の多くを占める「どちらか

と言え」の但し書き付きの多さに、指導の不足を感じています。日々生まれる新たなリスクにも注意しつつ、細部まで目を配った指導を実現します。

学校広報のさらなる充実を図ります

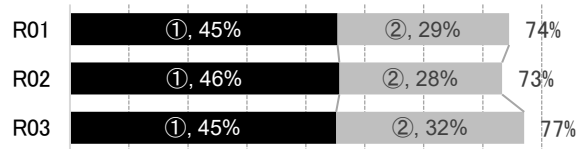
Q10 学校からの連絡文書や懇談会などを通じて学校の様子は十分に知ることができますか。



様々な教育活動に取り組むとき、その意図と方法、及び成果を余すところなく伝えることが重要と考えています。学校の情報発信に過年度を超える肯定的な評価をいただきました。今後もホームページに加え、Classiなどを有効に活用し、必要とされる情報をしっかりお届けできる広報を心掛けていきます。

Q11 進路希望や将来の職業あるいは学校での様子などについて家庭で話をすることはありますか。

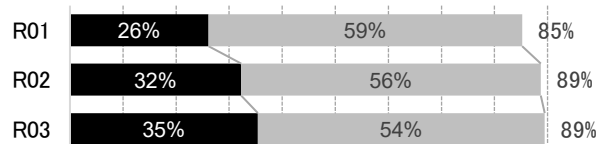
- ①話をする機会がよくあり、保護者も関心をもって会話を臨んでいる
- ②話をする機会はあるが、あまり突っ込んだ話にはならない



①の選択はわずかに減り、代わって「あまり突っ込んだ話にはならない」が増えています。進路選択では、親と子が互いの考えを十分に理解することはとても大切です。家庭での対話が活性化するように、情報発信を通じて、話題と材料の提供に一層の力を入れます。

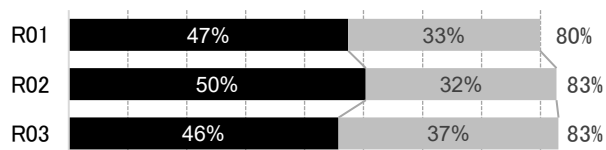
学校行事、部活動の指導

Q12 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。



昨年度から最も大きく評価が伸びたのは学校行事です。生徒の主体性や協働性を育む教育の場として今後も「生徒が主役の学校行事」の実現に努めます。

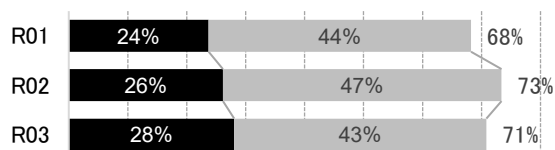
Q13 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われますか。



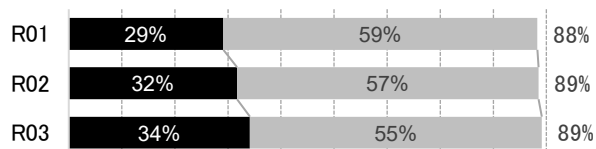
部活動顧問の指導に対しては、昨年度、比較的大きな改善がありましたが、今期は少し後退しています。回答には「わからない」も多く、生徒が熱心に部活動に取り組んでいる場合でも、ご家庭で顧問の指導を評価するだけの判断材料がないのかもしれませんが。学習指導や進路指導、学校行事と同様に、部活動指導の方針なども、しっかり理解を得られるよう情報の発信に努めて参りたいと思います。

将来を考えた行動選択、共存の資質

Q14 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。



Q15 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。

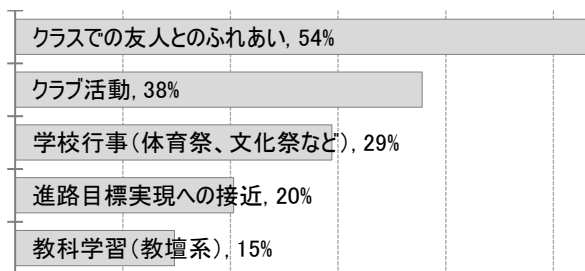


保護者の目を通した生徒の成長ぶりを「将来と結び付けた行動の選択」「立場の異なる相手に耳を傾ける姿勢」という観点でお尋ねしました。両者とも但し書きのつかない肯定が徐々に増えてきましたが、まだ改善の余地があり、更なる指導の充実に努めます。特に前者では、ポートフォリオでの内省機会を通し、メタ認知の育成にも力を入れていく予定です。

Q16 お子様在意欲や目標をもって学校に進んで通う姿勢を示している対象は何ですか。

右上の表は単純集計の結果ですが、前掲 Q8「目標をもってひたむきに頑張っているか」で「そう思う」を答えた保護者では、クラブ活動、進路目標実現、教科学習の3つでさらに大きな選択率を示しています。

これらにしっかり集中し、力を入れられるよう、学びの場の整備に今後も力を入れていきます。

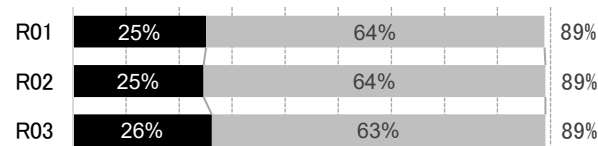


育友会の活動、保護者との相互理解

Q17 育友会について	R01	R02	R03
1. たいへんに関心があり、内容も分かっている	6.8%	6.6%	4.8%
2. 関心はあるが、内容についてはよくわからないことが多い	35.0%	33.7%	33.6%
3. あまり関心はないが、活動の内容はある程度知っている	28.6%	25.9%	20.2%
4. あまり関心はないし、活動の内容もよく知らない	29.6%	33.7%	41.3%

育友会の活動内容をご存じの保護者の割合は25%（回答 1. と 3. の合計）、活動内容に関心があるのは38%（同 1. と 2. の合計）です。広報に注力して活動へのご理解を高めるとともに、関心を持っていただける内容に、活動の刷新を図る必要もありそうです。

Q18 学校は、保護者や地域からの要望・意見に対して誠実に対応していると思いますか。



保護者の要望・意見に対する学校の誠実な対応には肯定的な評価が大半を占めましたが、「そう思う」は4分の1に止まります。このアンケートの結果を踏まえた教育活動の改善を着実に重ねることも、要望・意見に真摯に応えることの一つと考えます。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719

保護者による学校評価アンケート担当：教頭 上山 陽